

ライフスタイルの多様化等に関する懇談会  
～ 地域の活動力への活かし方 ～  
第1回資料

## ライフスタイルの多様化等に関する議論の進め方

令和元年7月9日

国土政策局総合計画課

# 1. 「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」の設置

- 人口減少下において、地域の社会的・経済的活力を維持していくためには、関係人口を含む地域の活動人口の比率を高めていく必要がある。
- 一方でライフスタイルの多様化やシェアリングエコノミーの進展等が確認されていることから、これらを踏まえた上で、関係人口に係る現状及び将来像について“見える化”することが求められている。
- よって、ライフスタイルの多様化やシェアリング等が対流に与える影響を把握しつつ、関係人口の類型化・定量化に向けた検討を行い、地域づくりの担い手を確保するための関係人口のあり方、その拡大等に向けた施策の方向性を提示する。

## 懇談会の構成

(懇談会委員) ◎:座長 「関係人口の実態把握WG」メンバー

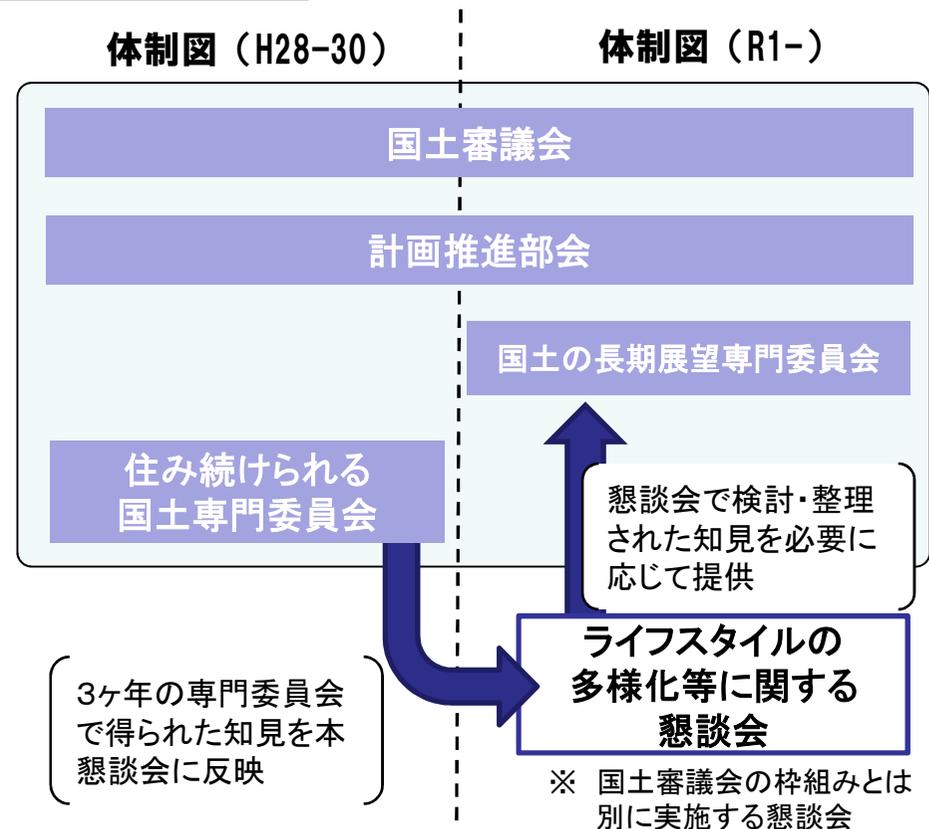
- ◎小田切 徳美 明治大学農学部教授
- 岡部 明子 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
- 谷口 守 筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授
- 石山 アンジュ 一般社団法人シェアリングエコノミー協会 事務局長  
一般社団法人Public Meets Innovation 代表理事
- 指出 一正 ソトコト編集長
- 三田 愛 株式会社リクルートライフスタイル 地域創造部  
じゃらんリサーチセンター 研究員
- 多田 朋孔 NPO法人地域おこし 事務局長

(事務局)

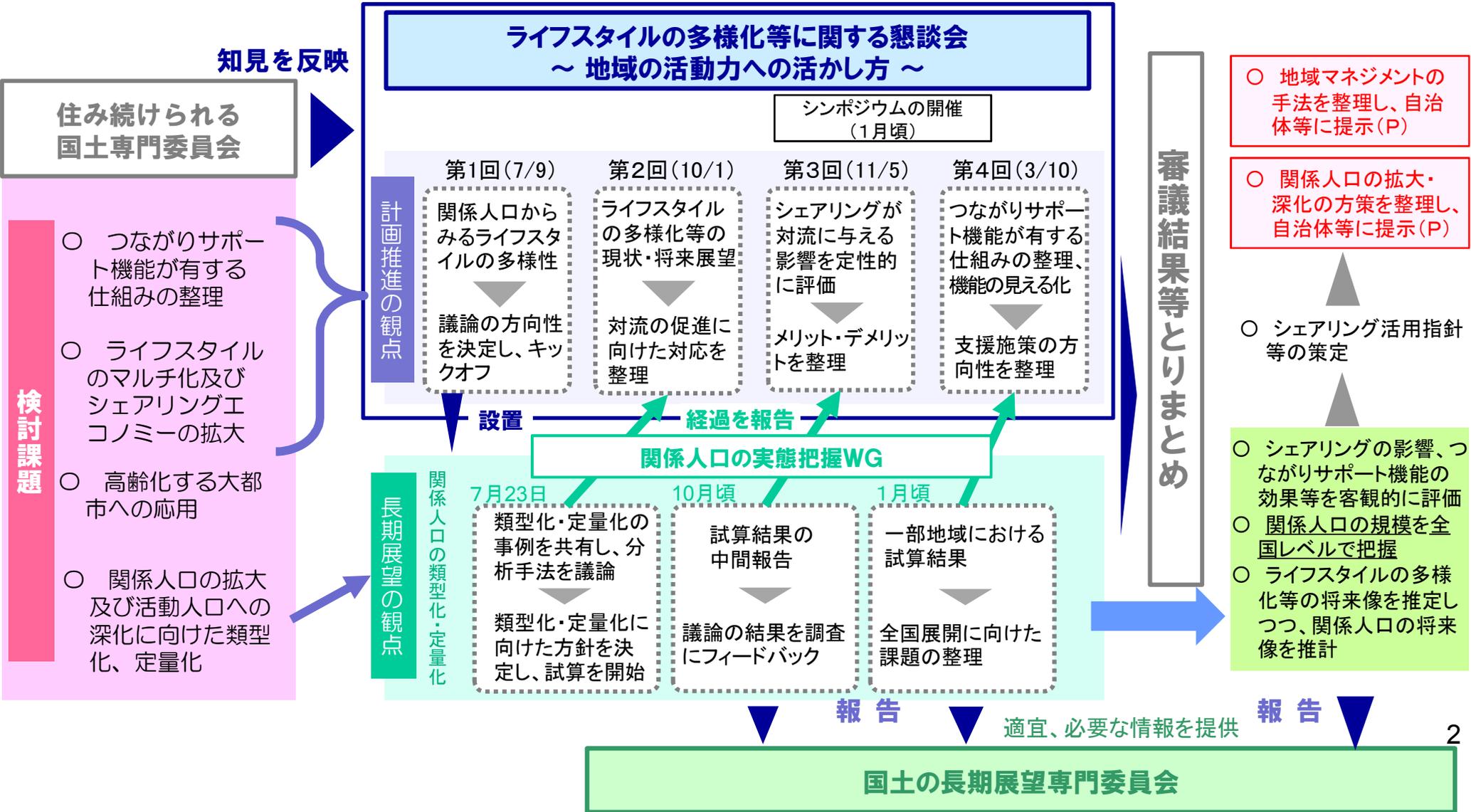
国土交通省国土政策局総合計画課

※ 関係人口の類型化・定量化に向けて、本懇談会の下に「関係人口の実態把握WG」を設置し、調査手法を検討

## 検討体制について



# 2. 検討に係るロードマップ（案）



# 今回の議論のポイント

## 【論点1】

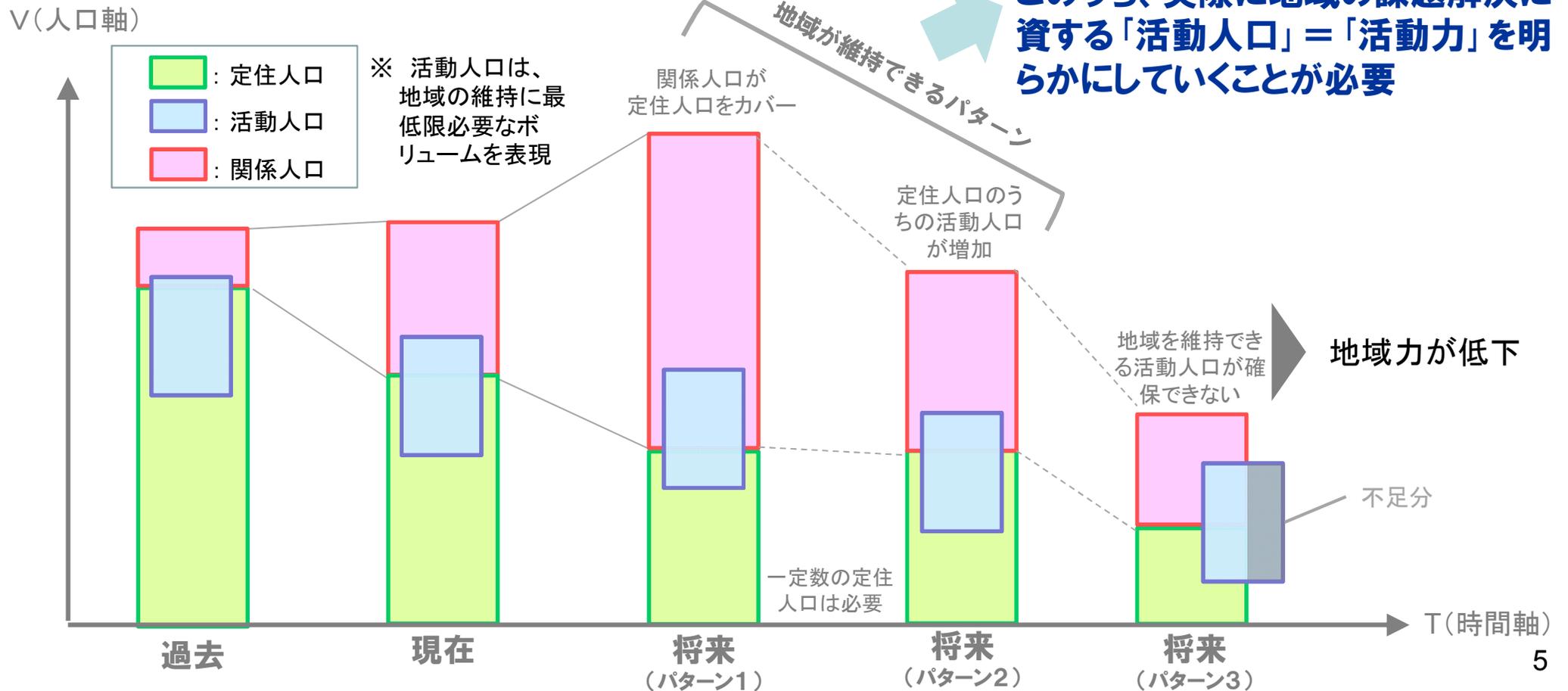
- 地域にとっては、多様な関係人口が存在することが重要であるが、特に必要な関係人口とは何か  
← 地域が望む活動内容とは何か。
  
- 地域の問題解決に資する活動人口とは、具体的にどのようなものなのか。  
← 何のための活動人口なのか。
  
- 地域の維持・向上に必要な活動力とは、どのような価値・機能なのか。  
← 地域で人が生きていくために必要な機能及び価値とは何か。どのように評価していくのか。

### 3. 関係人口と活動人口との関係

#### 【関係人口】

地域外にあって、移住でもなく観光でもなく、特定の地域と継続かつ多様な形で関わり、地域の課題解決に資する者などをいう。

#### 地域の活動人口(地方部のイメージ)



関係人口の定量化を行うとともに、このうち、実際に地域の課題解決に資する「活動人口」＝「活動力」を明らかにしていくことが必要

## 4. 地域活動のイメージ

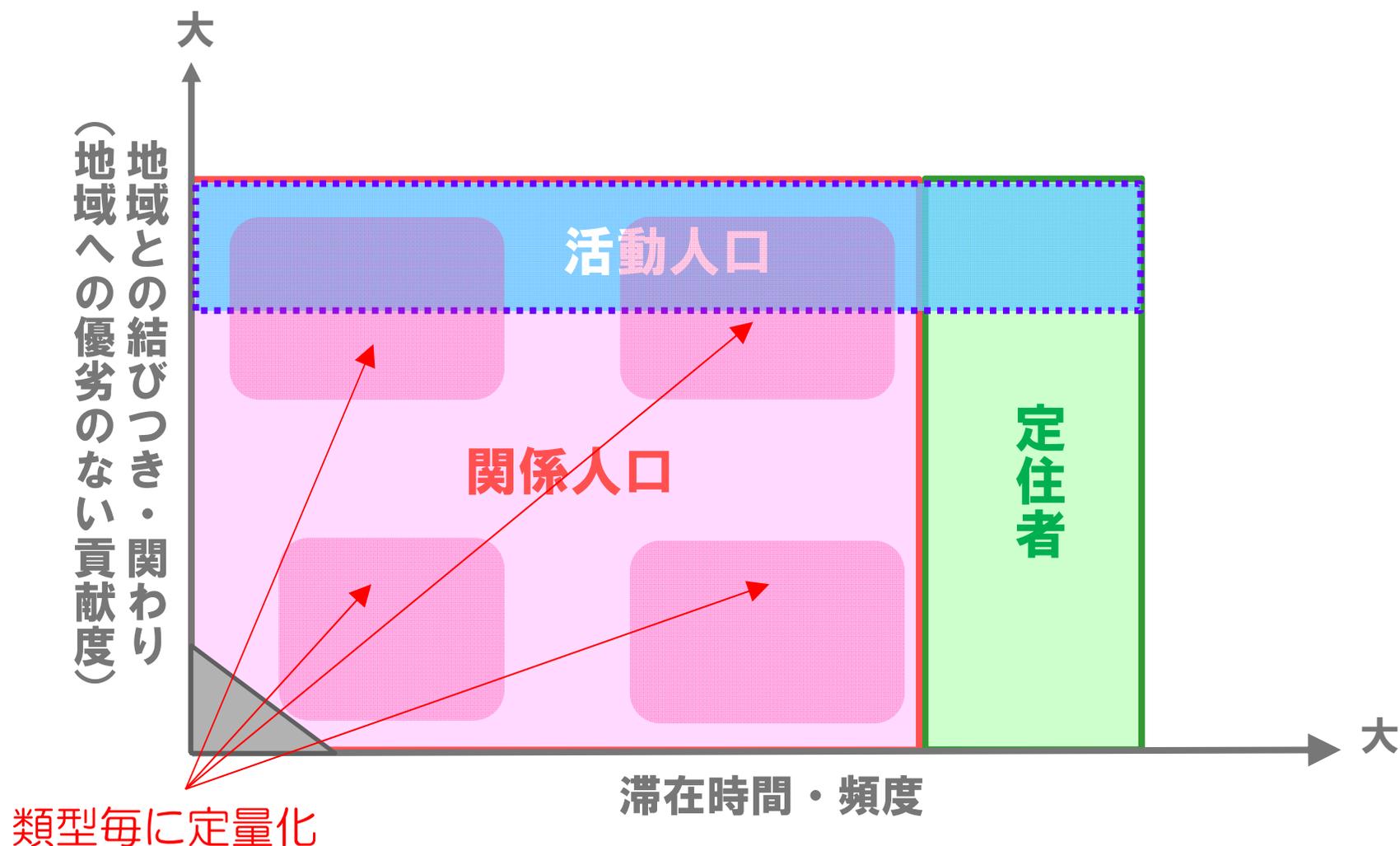
- 健康や医療サービスに関係した活動
- 高齢者を対象とした活動
- 障害者を対象とした活動
- 子供を対象とした活動
- スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動
- まちづくりのための活動
- 安全な生活のための活動
- 災害に関係した活動
- 多文化共生に関連した活動

## 【論点2】

- 関係人口の類型化については、①地域への滞在度と②地域への関与度の二軸で検討していきたいと考えているがその是非如何。
  
- 地方が関与した関係人口には、  
都市 → 地方、地方 → 都市、地方 → 地方  
の動きがあると想定されるが、地域づくりの観点からは、どの流れを捉えることが重要なのか？  
(今年度の調査の範囲)
  
- 拠点間の距離・時間をどのように考えるのか。  
← 実践者の拠点間の移動に係る距離と時間を把握する必要があるのではないか。

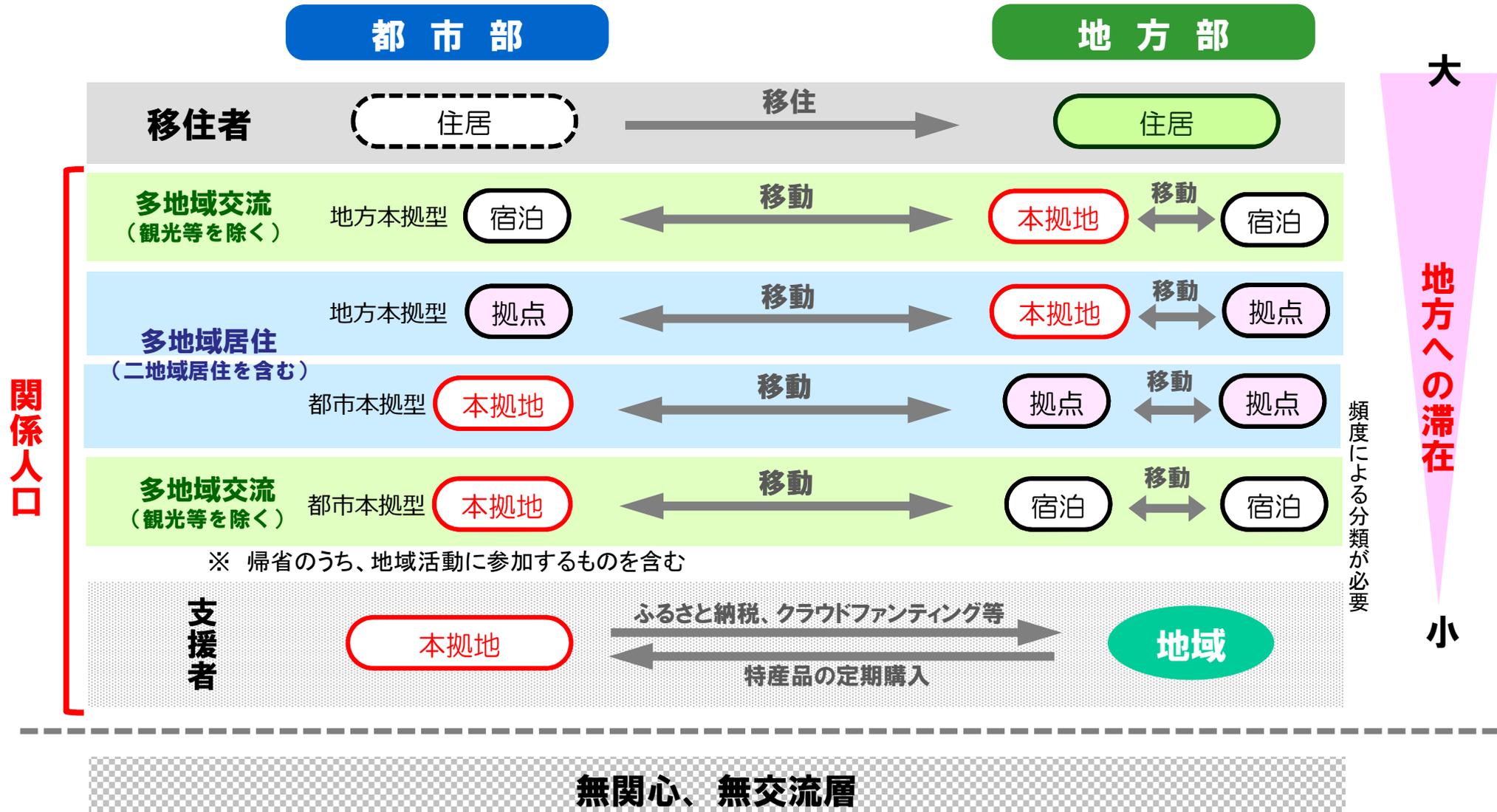
# 5. 関係人口の類型化・定量化のイメージ

- 「関係人口」については、国の機関では、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、総務省、国土交通省等が取り扱っているが、類型化等に関して統一的な整理は行われていない。
- 一方で、有効な施策を検討する観点や地域づくりを担う関係人口を考慮し地域の将来像を推定する観点からは、関係人口の類型を整理し、現状を“見える化”することが重要。



# 6. 地域への滞在度の分類のイメージ(都市と地方の対流)

- 関係人口の分類については、一つの考え方として、地域への滞在度合いの観点からの整理が可能
- 後述のライフステージに応じて、選択可能な滞在スタイルを検討する必要



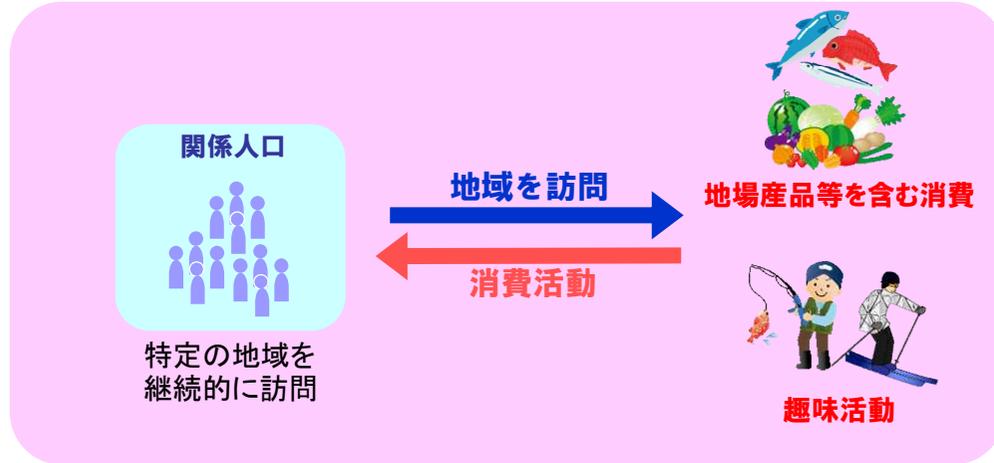
# 7. 関係人口の地域への関わりによる分類 【活動人口予備軍】

## 現地消費型・趣味実行型

都市部からの地方部に定期的・継続的に訪問し、消費活動、趣味活動等を実施

【事例】特になし

【前提条件】特になし

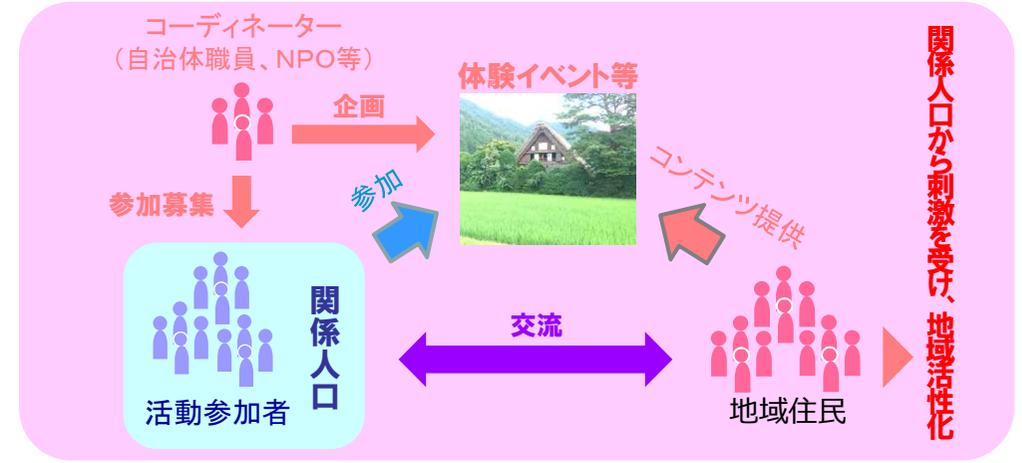


## 体験イベント参加型

恒常的に体験イベント等に参加し、地域との結びつきを強める

【事例】田舎暮らし体験、二地域交流体験、祭り参加等

【前提条件】あくまで体験・交流が目的であり、労働力として求めない

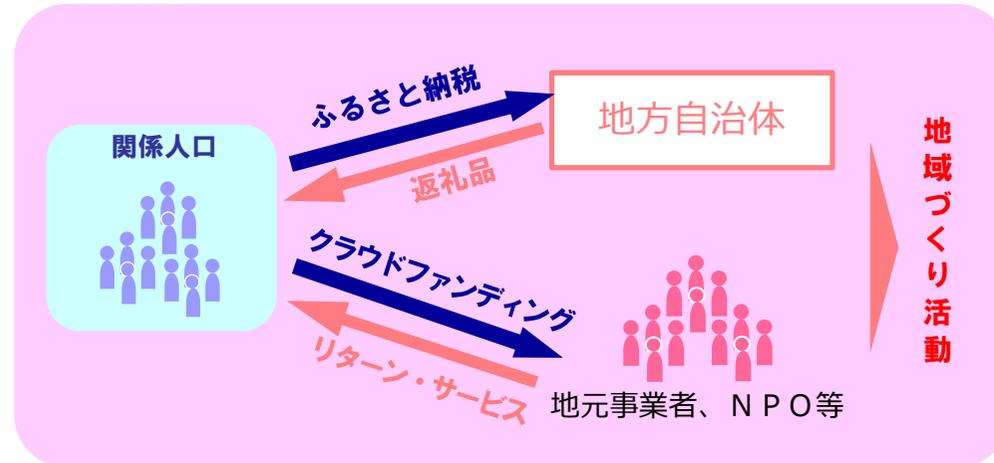


## 資金供給型

都市部からの資金供給により、地域を支援

【事例】ふるさと納税、クラウドファンディング等

【前提条件】特になし

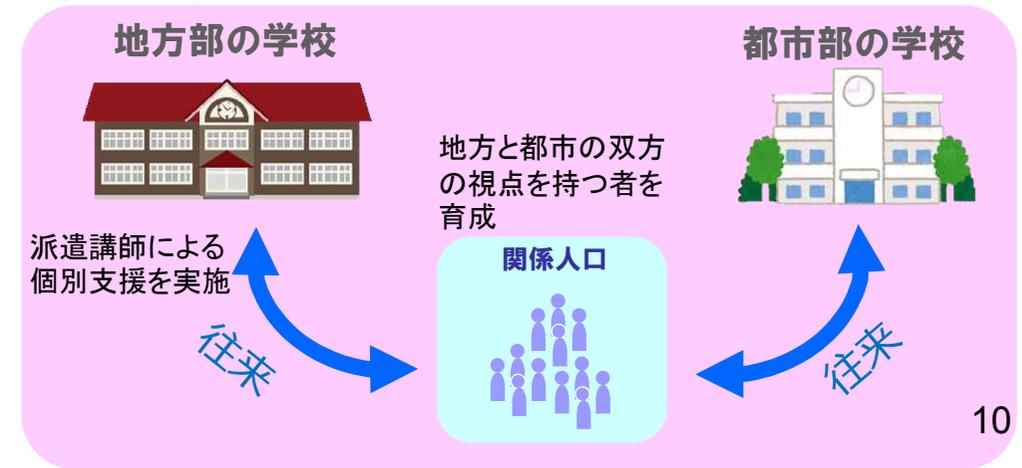


## デュアルスクール型

地方と都市の2つの学校の児童・生徒が学校間を行き来し、双方の学校で学習

【事例】徳島県(試行)

【前提条件】双方の市町村教育委員会が「区域外就学」を認めていること



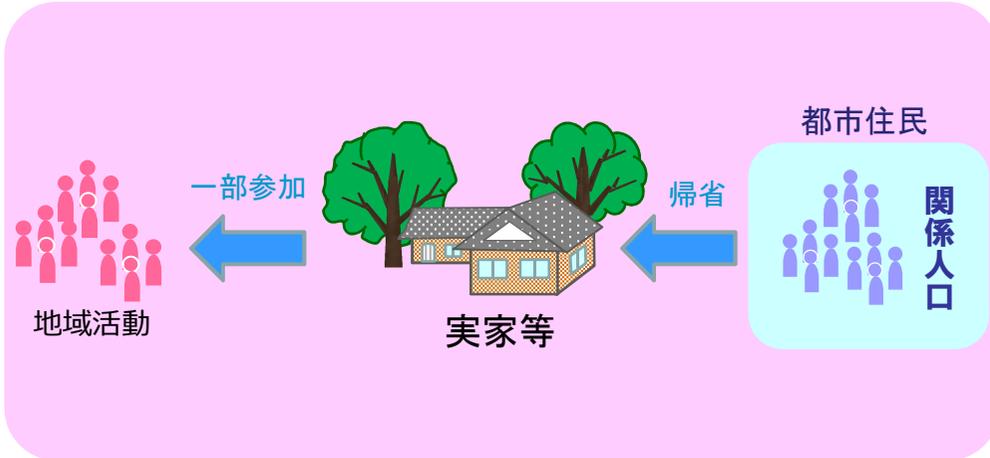
# 【活動人口予備軍型】

## 地縁・血縁型

地域内にルーツを持つ者が定期的に地域活動に参加

【事例】地域活動への参加を兼ねた帰省等

【前提条件】滞在拠点となる親戚宅、友人宅が存在

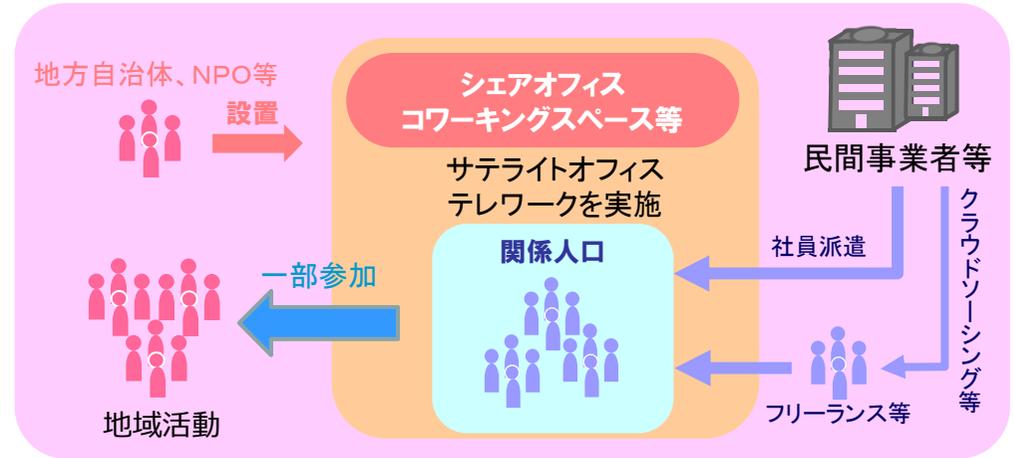


## サテライトオフィス利用型・アドレスフリー型

都市部に本拠を持つ企業等が地域内にサテライトオフィス等を設置

【事例】上土幌お試しオフィス、逆参勤交代、アドレスホッパー等

【前提条件】拠点性のある既存ストックを活用可能、テレワークが可能な職種



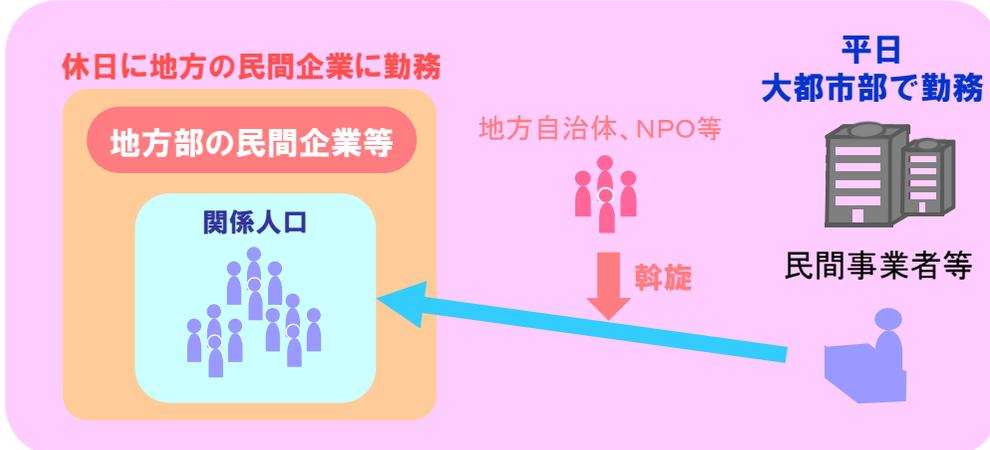
# 【活動人口型】

## 休日労働・副業型(都市拠点、雇用型)

平日は、大都市部で働き、休日に副業として地方企業で労働

【事例】岩手県八幡平市等

【前提条件】法人及び組織に所属している場合は、副業が認められている

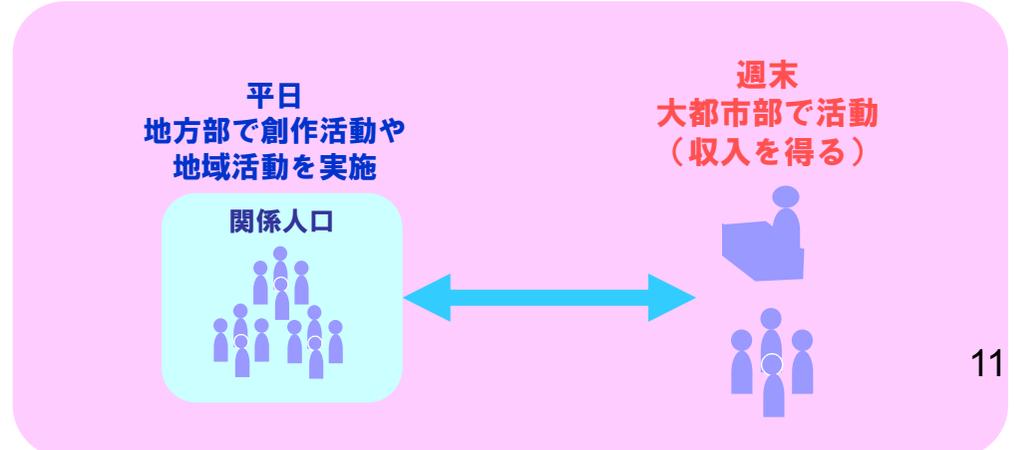


## 休日労働・副業型(地方拠点型)

平日は、地方部で活動を行い、週末に都市部に赴き収入を得る。

【事例】千葉県南房総市等 (要事例収集)

【前提条件】法人及び組織に所属している場合は、副業が認められている



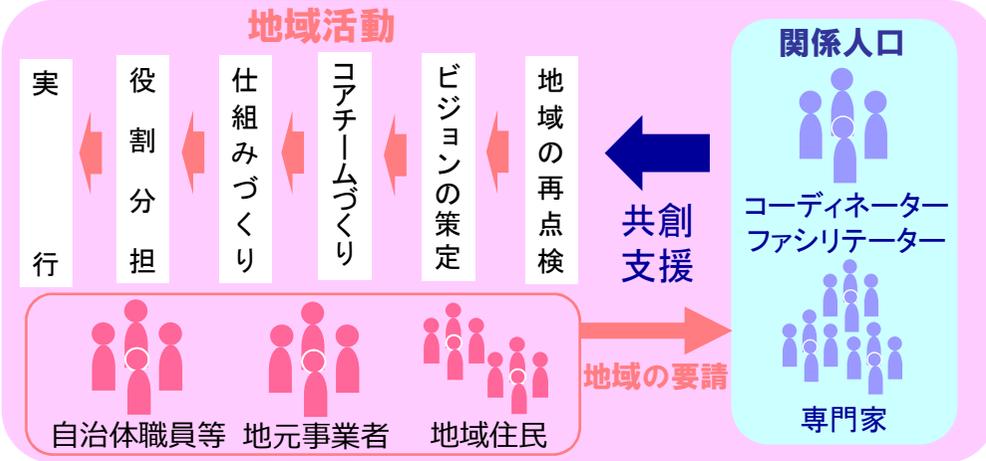
# 【活動人口型】

## コーディネート・ファシリテート型

コーディネーター・ファシリテーターが地域の取組を伴走的に支援

【事例】コ・クリエーション、集落活動センター等

【前提条件】地域にある程度人がいる、産業がある

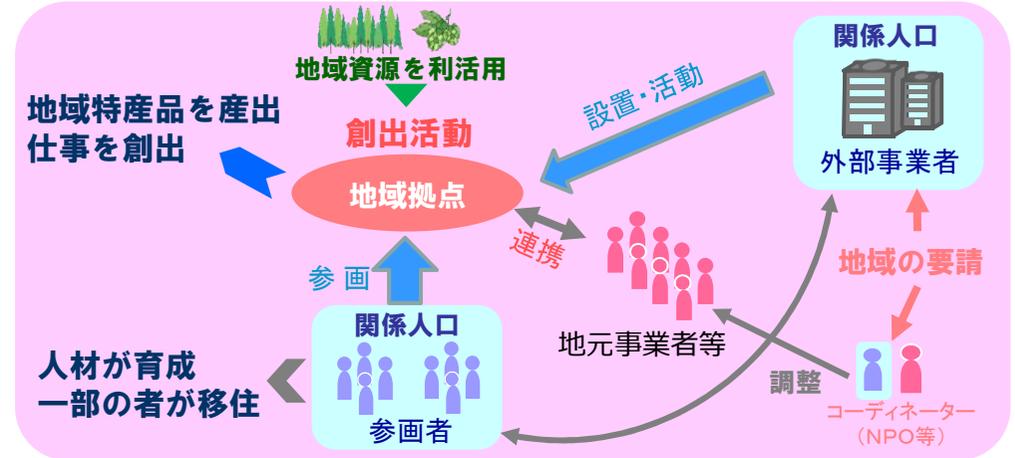


## 産業担い手創出型

自治体、地元企業等が外部組織と連携し、地域での仕事を創出し、人材を育成

【事例】Next Commons Lab、百年の森林構想等

【前提条件】利活用可能な地域資源、拠点となる既存ストックを活用可能

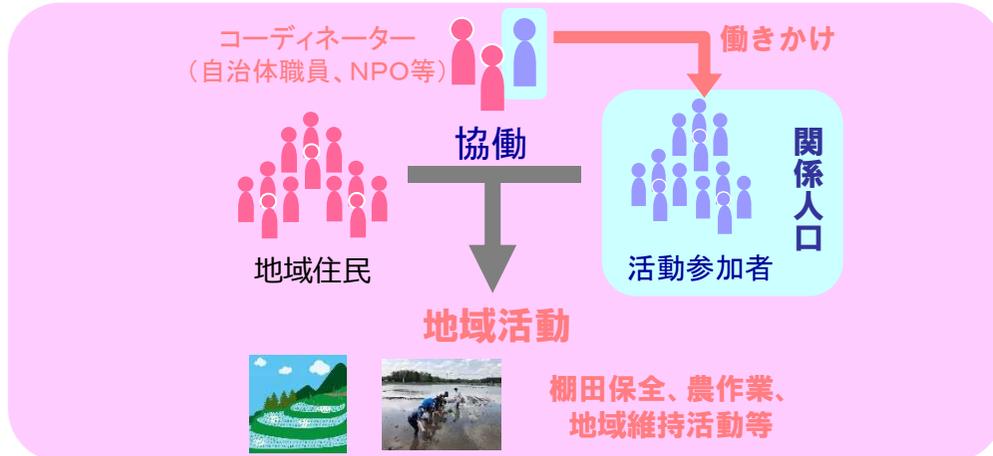


## 地域維持・労働力提供型

棚田等の地域資源の管理に外部アクターが参画し、地域を維持

【事例】棚田の維持活動、水路等の維持活動、海岸清掃等

【前提条件】地域外の者にとって魅力のある地域資源の存在

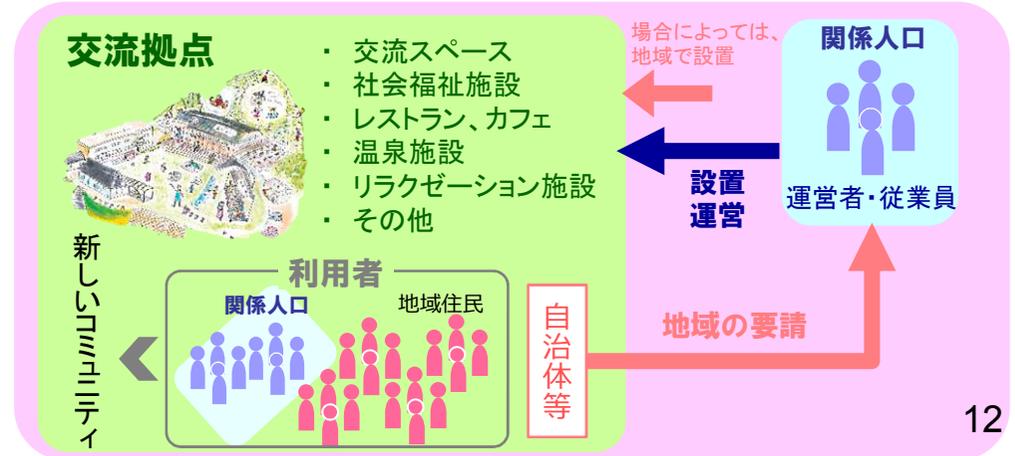


## プラットフォーム提供・利用型

拠点施設を構築し、地域の内外の対流を促進

【事例】輪島カブーレ、喫茶ランドリー等

【前提条件】拠点性のある既存ストックを活用可能、設備投資が可能



## 【論点3】

関係人口の実態把握ワーキング・グループ（第1回）において議論を行う内容

(1) 関係人口の類型を決定

(2) 調査方法の決定

- 1) アンケート調査の調査項目の設定
- 2) アンケートの母集団のとり方
- 3) 有効なアンケート実施手法の検討

## 【論点4】

○ 今回の懇談会の3つのテーマ

① ライフスタイルの多様化

② シェアリング

③ つながりサポート機能

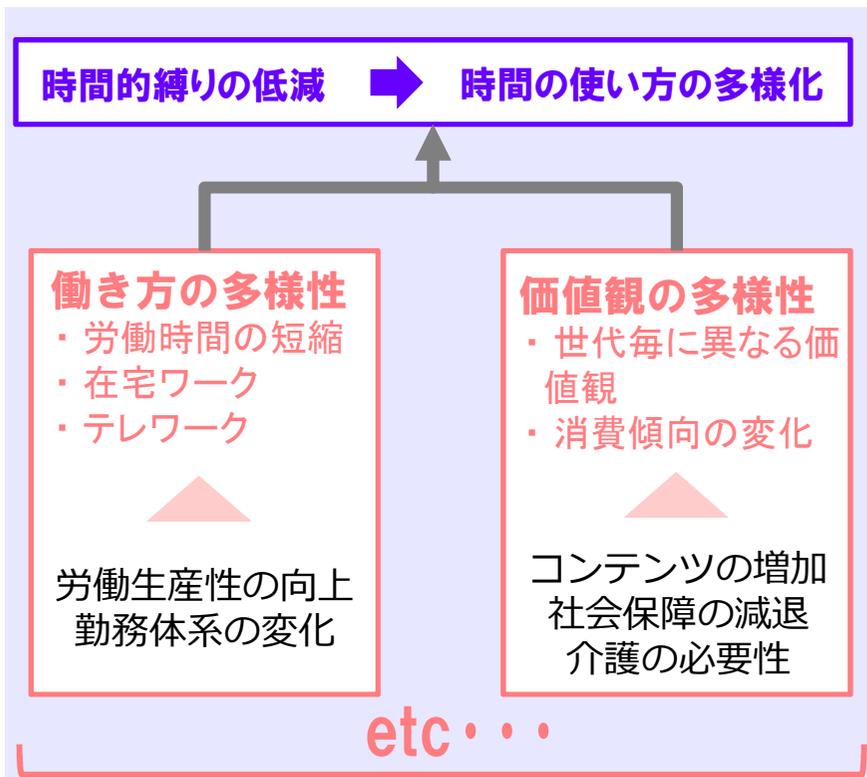
これら3つの論点の関係性をどう考えるのか。

○ 関係人口の拡大及び深化という観点から、  
これらの論点の議論をどのように進めていくのか。

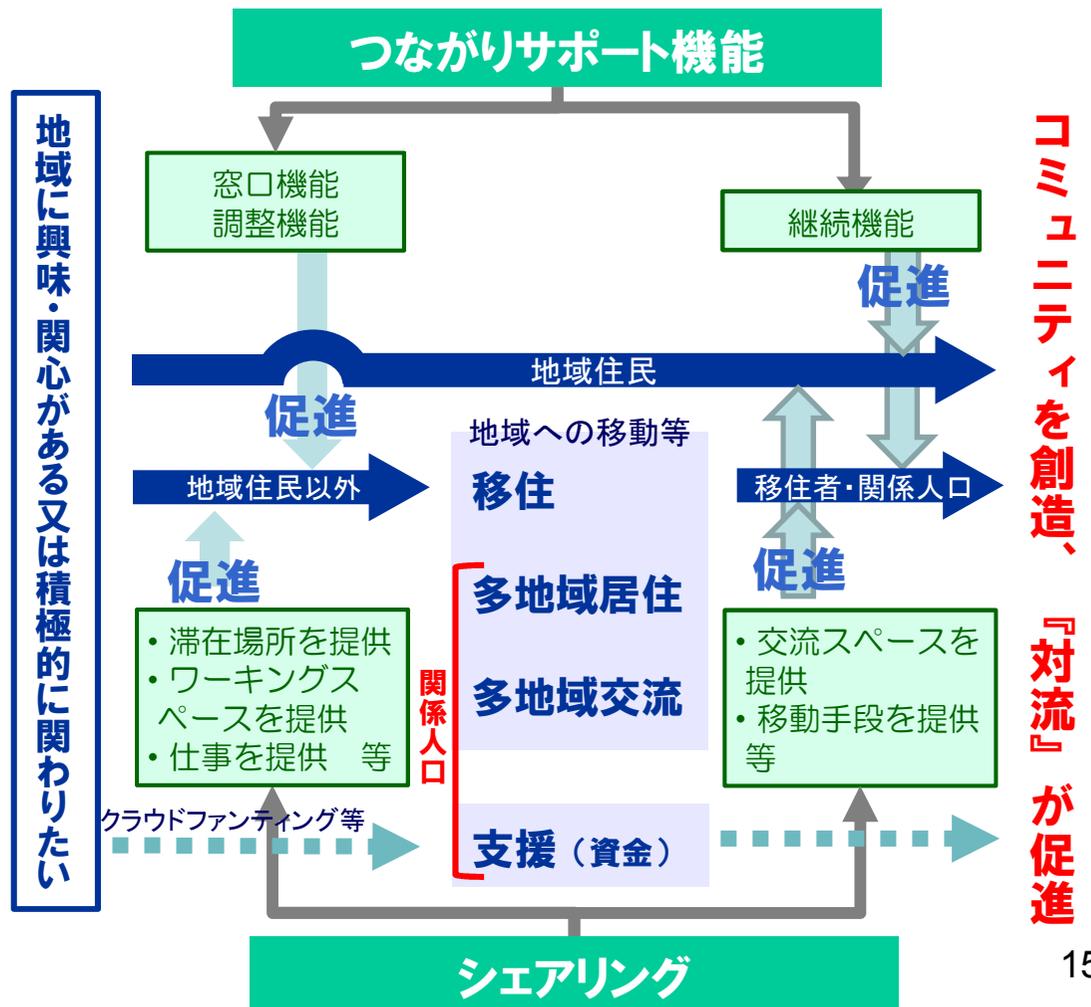
# 8. ライフスタイルが『対流』に及ぼす影響のイメージ

- 人生観、価値観、習慣などを含めた個人の生き方（ライフスタイル=生活様式・営み方）が多様化し、人々のニーズに影響を及ぼしている可能性があることから、その現状を明らかにする必要
- シェアリングのメリット及びデメリットを整理するとともに、つながりサポート機能が有する仕組みを整理することにより、「対流」の促進を進めるための方策を検討する必要
- 併せて、シェアリングの拡大等が、将来の「対流」に及ぼす影響を評価する必要

## ライフスタイルの多様化



ライフスタイルに影響を与える社会的な変化

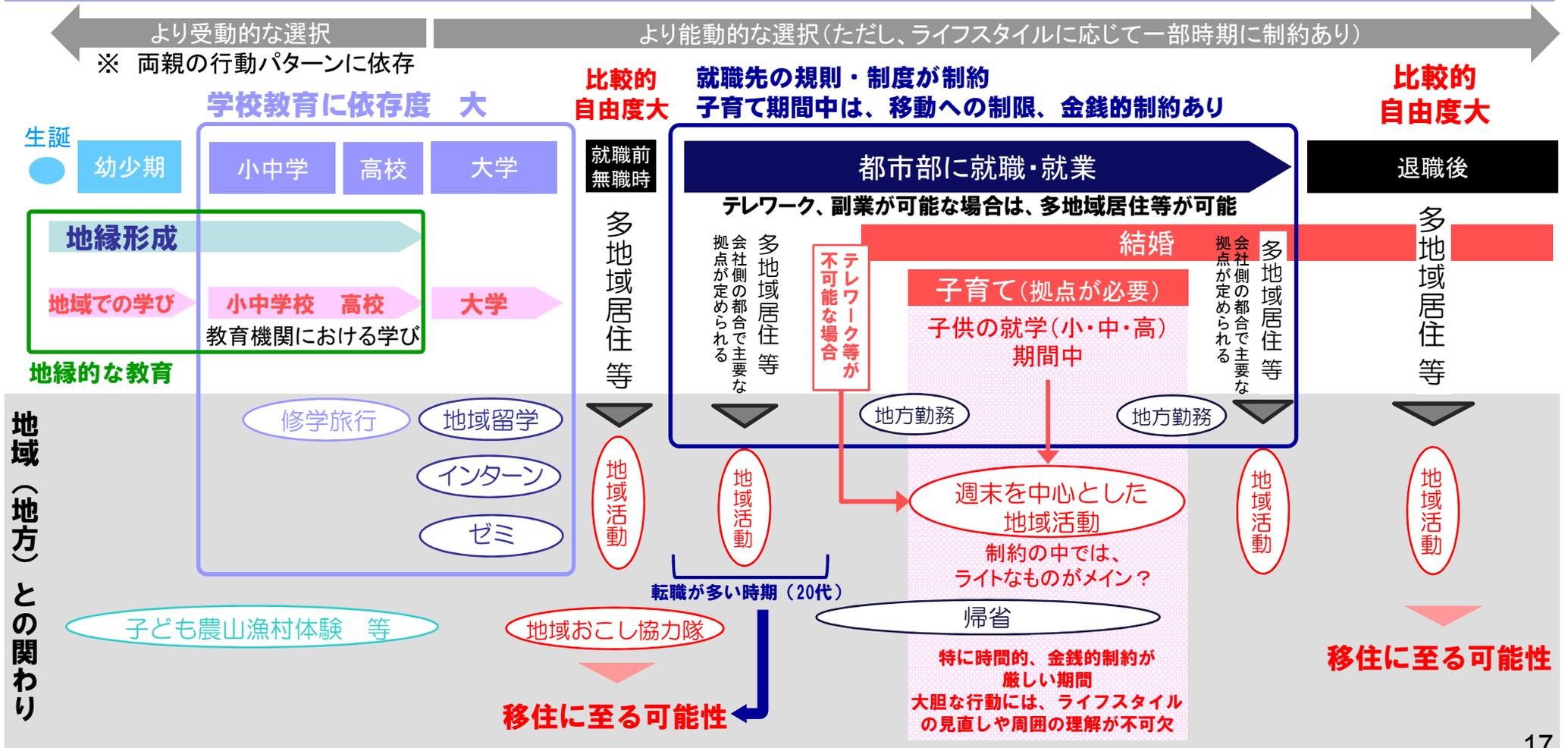


## 【論点5】（次回の論点の予告）

- ライフステージの観点からは、移住に至りやすい期間が限られている可能性があるのではないか。
- それぞれのステージにおいて、取り得ることができる関係人口の形があるのではないか
- ライフスタイルの多様化は、関係人口の拡大にどのような影響を及ぼすのか。

# 9. ライフステージに応じた関係人口の可能性

- 現状では、多くの者はライフステージに応じて、様々な制約があり、特に移住を容易に行える期間は、大学卒業後から就職前、定年後等の限られた期間である可能性
- よって、地域づくりの担い手確保の観点からは、移住・定住を前提としないような関係人口の積極的な活用が必要
- また、ライフステージの多様化の進展が関係人口にどのような影響を及ぼすのかについて、検討を行う必要



# 10. ライフスタイルと関係人口

- ライフスタイルは多様化しているが、居住地以外の地域との関わりの観点からは、業務上、家庭上の制約が現実的には存在
- 特に、業務上の制約は、労働者の大多数が企業等に所属していることを勘案すると、一定程度存在
- 様々な制約を踏まえた関係人口の状況を整理する必要

## 業務上の制約 (本業以外で取り組む場合)

